

シンポジウムⅡ

5. 九州沖縄地区高気圧環境医学懇話会の現況について

八木博司

(八木厚生会八木病院)

「どのような未来像を描くか—21世紀への高気圧酸素治療法—」というシンポに参加させていただくにあたり、九州・沖縄地区で行っている高気圧環境医学懇話会の生い立ちと現況について述べ、地方での学会活動が新しい治療法の普及に貢献でき、かつ新しい人材の確保に極めて重要な役割を果たすと考えられたので報告する。

九州沖縄地区高気圧環境医学懇話会は、昭和61年(1986)、私が第21回日本高気圧環境医学会を福岡の地で開催したのを契機に、本日司会の労を賜っている澤田教授(当時鹿児島大学医学部救急部)ら有志の方が相集い、昭和63年に発足、その年第1回の懇話会を福岡の地で開催した。爾来、九州各県を持ち廻りて年1回この懇話会を開き、今年で第12回を数える。現在の会員数は医師111名、医療技師その他が108名で、計219名である。

また、九州・沖縄地区の高気圧酸素治療装置設置病院数は136で、治療装置は第1種が150台、第2種が17台であり、31病院で数台の治療装置を有していることになる。大学病院関係で第2種装置を持っているのは4大学、第1種装置を持っているのは2大学で、1大学で新設の動きがある。

懇話会の演題数は毎回20題弱で、これに特別講演、或いは招聘講演が一題あり、内容もHBO療法の臨床応用からダイビング医学まで多方面に及んでいる。これらの学会活動を通じて、脳腫瘍に対する制癌剤或いは放射線治療の併用とか、Lancet誌に採用された潰瘍性大腸炎に対するtoxic megacolonへの応用など素晴らしい業績が発表されている。

将来的展望として各医療機関相互の連携を深め、新しい適応の拡大とかチーム医療の確立に努力したいと思っている。

シンポジウムⅡ

6. スポーツダイビングへの関与とネットワークの拡大

山見信夫*¹⁾ 眞野喜洋*¹⁾ 芝山正治*²⁾高橋正好*³⁾ 早野正記*⁴⁾*¹⁾東京医科歯科大学医学部保健衛生学科*²⁾駒沢女子大学*³⁾資源環境技術総合研究所安全工学部*⁴⁾日本海洋レジャー安全・振興協会

【はじめに】現在、スポーツダイバー人口は50万人に達するといわれている。これは、職業上、高圧に暴露される者の人口より圧倒的に多い。最近では、減圧症で来院するスポーツダイバーが増加している。

【スポーツダイビングへの関与】スポーツダイバーの安全を守るために、1992年2月にはDAN Japanが発足された。DAN Japanは、本部を日本海洋レジャー安全・振興協会に置き、医学的な対応は東京医科歯科大学が中心となり、同年4月からホットラインサービスを開始した。これまで7年間(1992年4月—1999年3月まで)の相談件数は587名で、そのうち減圧障害は250名である。

【ネットワークの拡大】DAN Japanは、スポーツダイバーのCカードホルダーを対象に、会員制をとっている。会員数は、1999年7月31日現在、11,557名である。DAN Japanは、医師のネットワークシステムと協力医療機関を持っている。医師ネットワークはDiving Doctors Network(DDNet)と称しており、1999年8月13日現在、199名、協力医療機関は、1999年1月31日現在、59施設である。DDNetは当初の目標人数である150名を超しているが、登録医師が大都市に偏っている。専門科目に偏りがある。入会にあたり医師を選考していないので、潜水障害に対する知識の偏りがある。減圧症を判断できる医師の在中する協力医療機関が、地方には少ないなどの問題点がある。今後これらの問題を改善するべきであると考えられる。